

Ⅲ 研究のまとめ

【今年度の研究の成果と課題】

昨年度から ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) を校内研究として行ってきた。昨年度の成果として、「西郷小 ESD カレンダー」作成によるカリキュラムマネジメント、各学年での思考ツールの活用による探究過程の充実、「私の課題」設定による意欲的な学習態度の育成などが挙げられる。また、課題としては、概念的知識を明確にした単元構成の必要性、カリキュラムマネジメントの深化が挙げられる。

昨年度の成果と課題を受けて、今年度は、①概念的知識を明確にし、地域や児童の実態に即した「単元ものがたり」の作成、②探究の過程をスパイラル的にまわしていく手立ての工夫、③生活科・総合的な学習の時間を軸にした ESD カレンダーの活用の3つを重点に置いて研究を進めてきた。

このような取り組みを通して明らかになった成果と課題は以下の点である。

① 成果

- ・単元に入る前に、概念的知識を明確にした「単元ものがたり」作成の時間をとることで、単元の導入や次の探究の過程に進む際に、どのような人・もの・ことと出会わせるかを考えることができ、単元全体の流れを教師が意識することができた。【Care (他者への思いやり, 相手への配慮)】
- ・1年生は「家族の役に立つため」、2～6年生は「西郷の町」をテーマに、各学年で必然性のある課題を設定したことで、発表する場や発信する相手を常に意識しながら学習活動に取り組めるようになり、児童の学習意欲が持続させることができた。【Continuity (継続する力)】
- ・単元計画や単元のめあて、思考ツールの使い方など、学習の足跡を教室に掲示することで、児童がこれまでの学習を振り返ったり、今後の学習の見通しをもったりできるようになり、主体的に課題追究することができた。【Continuity】
- ・教師が単元を通して身に付けさせたい力や概念的知識を意識しながら学習活動を展開したり、高学年ではそれらを児童とも共有したりすることで、「学習を通して得た力」を観点にして毎時や単元の振り返りを書けるようになり、児童に自分自身の伸びを実感させることができた。【Continuity】
- ・校区内の探検、市役所の方や尾崎人形の職人さんの話などの体験活動をきっかけにして、時間をかけて「私の課題」を設定していった。また、『情報の収集』→『整理・分析』の過程を経て、より深く調べる必要があったり、別の情報が必要になったりした場合には、再度探検したり話を聞いたりして『情報の収集』の過程に戻ることもあった。さらに、『まとめ・表現』の過程では、まとめたことを発信する場を「よりわかりやすく伝えよう」「より多くの人に発信しよう」と、1度だけでなく複数回設定して取り組んだ。【Communication (コミュニケーション力)】【Care】
- ・4つの探究の過程(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現)を何度かスパイラル的に繰り返す工夫を行ったことで、一つの単元の中で地域の方と繰り返し関わったり、グループの級友と何度も意見交換したり目的に応じてする機会が増えたことで、コミュニケーション能力も高まってきた。【Communication】【Care】

② 課題

- ・総合的な学習の時間で学習したことが他教科等で生かされていることや、他教科等で学習した内容が総合的な学習の時間で役立っていることを多くの児童が実感できる手立てをとると、学習意欲がより高まっていくのではないと思われる。より一層教科等横断的なカリキュラムに近づけていくためにも、2年間で作成した ESD カレンダーを今後も有効に活用していく。
- ・各児童が「私の課題」を設定し、解決していく過程において、課題内容や発信したい対象などが異なり、担任一人では十分に支援したり関わったりすることが難しく感じることも多かった。全学級が単学級ではあるが、可能な限り教師間で連携、協力しながら学習活動が進められるような体制を作っていくことが今後必要である。
- ・児童が常に目的意識をもって学習を進めていくためには、その単元の最終的なゴールを明確にしていくことが非常に大切だと感じた。「単元ものがたり」を作成、活用していく中で、児童自身が加除修正したり方向性を再確認したりする時間を設定する必要がある。